

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・毎週末いろいろなイベントが行われて、来街者数もかなり増えている。平日の夕方は若干少なめだが、インバウンド、また、国内観光客ともかなり増えてにぎわっている。
	○	商店街（代表者）	それ以外	・今年は政治の年で、その上結果予測がつかず景気への影響もあり不安定であった。結果は絶妙のバランスとなり、これまでの一強政策でなく、国民目線の政策が少し実現するとみている。
	○	その他小売 〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・今月は近隣でコンベンションが多く、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年度以上の集客で、土産店や飲食店中心に好調である。
	○	その他飲食 〔ファーストフード〕（経営者）	販売量の動き	・コロナ禍も落ち着き、テイクアウト需要が復活したため、現在でもその影響が続いており、ファーストフード店では売上が好調である。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・7月、8月と災害に関連した間接的な影響を受けたものの、その影響が薄まり、地域に本来の集客力が戻ってきている。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・2～3か月前と比較すると1割程度良くなっているが、そのような状況でも市内のタクシーは増車されておらず、以前の40%から50%の台数で稼働している。
	○	競艇場（マネージャー）	販売量の動き	・物価が上昇し、買い控えが広まってきているなかであっても、遊興に関しては販売金額が増加している。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・インバウンド来街の高止まり、大型店の催事や地域のイベントの活況もあり、街ににぎわいはある。ただし、為替が少し円高に振れ、インバウンドの購買に今春ほどの勢いがなくなることに加え、残暑や物価高で地元客が必要以上に消費をしていないことから、景気は良くなっていない。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・選挙や会社の祝い事などが多かったため、胡蝶蘭などの高額祝い商品がよく売れた。しかし、個人の注文は単価の低い商品がメインになっている。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・値上げにより客単価は上がっているが、来客数は前年並みである。
	□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・食料品については依然として堅調に推移している。一方で、季節の変動や物価の上昇による節約志向の影響により、衣料や住居関連品は苦戦している。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品の値上げが止まらないことが要因となり、顧客が少しでも単価の低いスーパーやドラッグストアなどで消費しており、来客数は増加していないが、単価上昇による売上額の増加が続いている。
	□	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・販売促進強化もあり、夏以降、来客数が前年比100%超に回復、維持している。
	□	スーパー（統括担当）	単価の動き	・来客数減少、単価上昇の動きに変わりはない。米も含め、価格上昇の影響は大きい。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が減少する一方、物価上昇による客単価の上昇の結果、前年並みの売上であった。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・前年と比較して、来客数が回復していない。
□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・来客数は落ちてはいないが、地方は首都圏のようなインバウンド需要もなく、原材料費、人件費、物流費の高騰の影響の方が強い。	
□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は秋に差し掛かった時期であるため、本来はそこそこ良い数字が出る。しかし、多少気温が影響しているものの、単価が上昇し過ぎているため、来客数が減少傾向となることに伴い、売上の収支はプラスマイナスゼロ程度になり、全体的には悪くなっている。	

	□	衣料品専門店 (営業責任者)	販売量の動き	・なかなか気温が下がらないため、秋物衣料の販売が低迷している。また、物価上昇の影響もあり、追加で購入する動きが鈍っている。
	□	家電量販店(店員)	販売量の動き	・閑散期に入り、全体的に売上が減る時期ではあるが、現状、値上げの影響もあるとみられる。
	□	家電量販店(副店長)	来客数の動き	・来客数は、前年比5%減少の状況が続いている。しかし、全体数値においては、前年と同様、特に大きな変化はない。
	□	乗用車販売業 (営業担当)	販売量の動き	・販売停止車両が多く、受注台数が増加しない。
	□	乗用車販売店 (役員)	お客様の様子	・物価上昇もあるなか、車の購買意欲への変化はない。
	□	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・日本や米国の選挙動向にもよるが、先が見えづらく動きが弱くなっている。
	□	観光遊園地(主幹)	来客数の動き	・インバウンドの来場者数が高水準で維持されている。
	□	設計事務所(所長)	単価の動き	・依然として、単価が低下する気配がない。
	▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・地方都市で賃上げの効果が行き届いていないなかで、物価上昇がじわじわと家計に響いてきている。なかなか余暇に金を使用することもできず、厳しい状況が続いている。
	▲	一般小売店[文具店](経営者)	来客数の動き	・令和6年度の後半に入り、受注量の増加を期待しているが、現状では変化はみられず、低迷している。仕入価格は、現在変化はないが、今後の状況によって、高騰することが懸念される。
	▲	一般小売店[書籍](営業担当)	販売量の動き	・10月前半は、前年同月比で大きく落ち込んでいたが、後半は外商売上が上向いてきて、前年同月比で僅かな減少までに持ち直した。
	▲	百貨店(マネージャー)	販売量の動き	・今月に入り、売上が前年比マイナスになっている。
	▲	スーパー(店長)	単価の動き	・競合店の販売促進により、直近の客単価が低下している。
	▲	スーパー(人事)	お客様の様子	・多くの商品に値上げがあり、購買に消極的になっている。
	▲	コンビニ(店長)	販売量の動き	・商品価格上昇の影響により、購買意欲が低下している。買上点数が減少するとともに、売上も増加していない。
	▲	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・物価高であらゆる物の価格が上昇しているため、客が金を使わない。
	▲	その他専門店[酒](経営者)	販売量の動き	・夏、お中元、秋祭りが終わったことから、現在が最も売行きが悪い。
	▲	旅行代理店(部長)	お客様の様子	・物価上昇や選挙の影響を受けている。
	▲	美容室(経営者)	来客数の動き	・例年9月から11月は売上が減少する月であるため、この時期に来年の企画の立案が必要になる。
	▲	美容室(経営者)	お客様の様子	・来客数は大きく変わらないが、単価が低下している。
	×	一般小売店[酒](経営者)	お客様の様子	・物価高が続いているため、節約、儉約志向が高まっている。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
(四国)	○	木材木製品製造業(営業部長)	受注量や販売量の動き	・受注量が回復傾向で推移しており、向こう3か月は安定的に回復する見込みである。
	○	電気機械器具製造業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・地方では、徐々に各地域で催物が自発的に実施され始め、例えばバザーの活発な活動が目立つようになってきた。そのような状況のなかで、地域住民自らが参加できる仕組みが徐々にできつつあることから、大局的にみて地方創生の成功につながっている。
	○	通信業(企画・売上管理)	受注量や販売量の動き	・スポットCMの受注が好調である。

	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、入荷数量の減少や単価の上昇傾向により、力強さには欠けていた。品目により価格差が生じており、明暗が分かれる状態となった。しかし、明るい場合でも単価が上昇しただけで、収穫量が少なかったため、全体収益は平年並みにとどまり、作況が平均を下回る生産者の利益は平年を下回っている。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・8月の稼働日数は18日と少なく、納期対応に追われている状況にあるものの、受注量や販売量は余り変わらない。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、受注が極端に少なくなってしまった。
	□	輸送業（経営者）	取引先の様子	・景気が良くなる気配はあるが、結局は余り変わらない。
	□	通信会社（総務担当）	それ以外	・帰宅途中の市内の人通りに変化がない。会社のボランティア活動に参加するメンバーの増減もほとんどない。
	▲	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・全ての価格が上昇し、購買意欲を下げている。
	▲	金融業（副支店長）	取引先の様子	・物価や建築費の上昇に対して、賃金が増加しておらず、建築関係の販売がやや低迷している。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・人件費の高騰や物価上昇がある一方、売上に反映されているところが少ない。
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・周辺企業の求人への応募状況や採用状況をみると、以前と比較して応募数や採用マッチング数が増加傾向にあり、人材の流動性が高まっている。
	□	人材派遣会社（総務部長）	求人数の動き	・派遣業界では、求人数が増加すれば景気が上向きに兆候となる。
	□	職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・求人数は、若干増加傾向ではあるが、最低賃金の引き上げや年収の壁に代表されるような社会保険適用拡大等に関連した人手不足の影響が大きく、景気が上向きであるとまではいえない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・各企業がレギュラー広告を立て続けに減らしている。
	×	—	—	—